

業協
本易
日貿

C P h I で 特別講演

原薬安定供給で議論

日本薬業貿易協会(日薬貿)は、東京ビッグサ

I I tで「C P h I」

を傾けた。

午前中、パネルディス

カッションに先づいて各

国代表があいさつし、日

薬貿の角田秀雄会長は「

「ジェネリック80%目標

は海外原薬の安定調達に

カギを握る。このイベント

が各国の薬事法の相互

理解につながることを期

待したい」と抱負を述べ

た。続いて中国医薬保険

品輸出入商会の孟安平副

会長が「中国は原料供給

地に加え、一大消費市場

としても活況を呈してい

る。日本への輸出を拡大

し、ジェネリック普及に

開会式で各国の行政
・業界団体の講師があいさつした



欧州原薬委員会(A P I C) 日本部会長のマリ・クレール・デュボン・ケイロン博士は「日本の薬事法には不明確な部分が見受けられ、非効率な仕組みも多い」とし、新たな管理手順を提案した。こうした声を受けて厚生

労働省医政局の大西友弘経済課長は「業界関係者と協力し、80%普及を確実に進める」と話した。

午後のパネルディスカッションでは、初めに日本、中国、韓国、インド

のアジア圏で討論が行われ、次に日本、欧州、米

国の3団体が意見を交換した。各国の代表者らは

日本に対し、自国原薬の安全性をアピールしたほ

か、円滑な原薬供給を実現するため規制の緩和などを求めた。